

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年9月8日(2005.9.8)

【公表番号】特表2001-511771(P2001-511771A)

【公表日】平成13年8月14日(2001.8.14)

【出願番号】特願平10-531499

【国際特許分類第7版】

C 0 7 C 225/22

A 6 1 K 31/136

A 6 1 K 31/167

A 6 1 K 31/27

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 17/06

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 29/00

C 0 7 C 229/18

C 0 7 C 229/56

C 0 7 C 229/60

C 0 7 C 233/43

C 0 7 C 251/48

C 0 7 C 255/58

C 0 7 C 271/28

C 0 7 C 275/40

C 0 7 C 311/08

C 0 7 C 311/21

C 0 7 C 323/31

【F I】

C 0 7 C 225/22

A 6 1 K 31/136

A 6 1 K 31/167

A 6 1 K 31/27

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 17/06

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 29/00 1 0 1

C 0 7 C 229/18

C 0 7 C 229/56

C 0 7 C 229/60

C 0 7 C 233/43

C 0 7 C 251/48

C 0 7 C 255/58

C 0 7 C 271/28

C 0 7 C 275/40
C 0 7 C 311/08
C 0 7 C 311/21
C 0 7 C 323/31

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月5日(2005.1.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年 1月 5日

特許庁長官殿

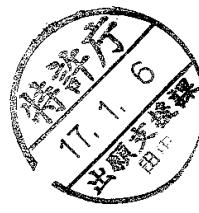


1. 事件の表示

平成10年特許願第531499号

2. 補正をする者

氏名（名称） レオ・ファーマシューティカル・プロダクツ・
リミテッド・アクティーゼルスカブ
(レーベンス・ケミスケ・ファブリック・
プロデュクチオンスアクティーゼルスカブ)



3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葵



4. 補正対象書類名 請求の範囲

5. 補正対象項目名 請求の範囲

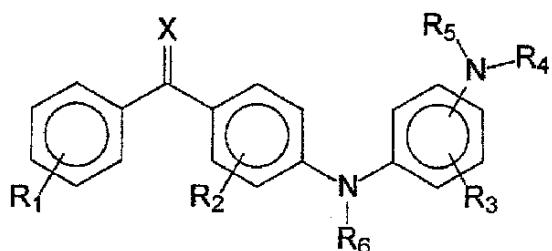
6. 補正の内容
別紙のとおり



(別紙)

請求の範囲

1. 式 I :



[式中、R₁およびR₂はそれぞれ、水素、ハロゲン、ヒドロキシ、メルカプト、トリフルオロメチル、アミノ、アルキル、アルコキシ、アルキルチオ、アルキルアミノ、もしくはアルコキシカルボニル（それらの炭素数は1～5であり得る）、シアノ、カルバモイル、フェニル、またはニトロから成る群から選択する1個またはそれ以上の同様または異なる置換基を表し；R₃は水素、ハロゲン、ヒドロキシ、メルカプト、トリフルオロメチル、アミノ、アルキル、アルコキシ、アルキルチオ、アルキルアミノ、もしくはアルコキシカルボニル（それらの炭素数は1～5であり得る）、フェニル、シアノ、カルボキシ、またはカルバモイルを表し；R₄、R₅およびR₆はそれぞれ、水素、トリフルオロメチル、アルキル、カルバモイル、アルコキシカルボニル、またはアルカロイル（それらの炭素数は1～5であり得る）を表し；Xは酸素、N-OH、N-O-アルキル、ジアルコキシ、環状ジアルコキシ、ジアルキルチオ、または環状ジアルキルチオ（それらの炭素数は1～5であり得る）を表す。]

で示される化合物；および薬学的に許容し得る無毒性酸との塩。

2. R₁、R₂、R₃、R₄、R₅およびR₆は請求項1に定義した通りであり；Xは酸素、N-OH、またはN-O-アルキル（その炭素数は1～5であり得る）である請求項1記載の式Iで示される化合物；および薬学的に許容し得る無毒性酸との塩。

3. 塩酸、臭化水素酸、ヨウ化水素酸、リン酸、硫酸、硝酸、p-トルエンスルホン酸、メタンスルホン酸、ギ酸、酢酸、プロピオン酸、クエン酸、酒石酸、およびマレイン酸と共に形成される塩から成る群から選択する請求項1記載の塩。

4. 4-(2-アミノフェニルアミノ)-2-クロロ-2'-メチルベンゾフェノン；

4-(2-アミノフェニルアミノ)-2-メトキシ-2'-メチルベンゾフェノン；

4-(2-アミノフェニルアミノ)-2-クロロ-2'-(トリフルオロメチル)ベンゾフェノン；

エチルN-(2-(4-(2-メチルベンゾイル)-3-クロロフェニルアミノ)フェニル)カルバメート；

4'-(2-アミノフェニルアミノ)-3'-クロロ-4-メトキシ-2,6-ジメチルベンゾフェノン；

2,2,2-トリフルオロ-N-(2-(4-(2-メチルベンゾイル)-3-クロロフェニルアミノ)フェニル)アセトアミド；

4-(2-アミノフェニルアミノ)-2-クロロ-2',6'-ジメチルベンゾフェノン；および

4-(2-アミノフェニルアミノ)-2-クロロ-4'-フルオロ-2'-メチルベンゾフェノン；

並びにそれらの塩

から成る群から選択する請求項1記載の化合物。

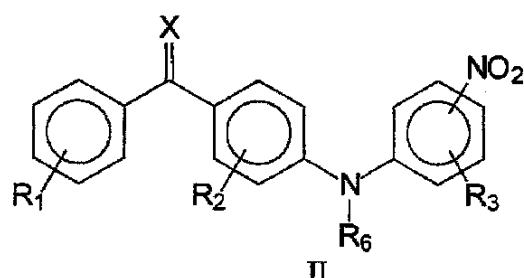
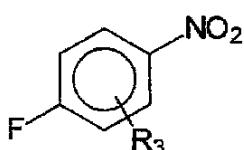
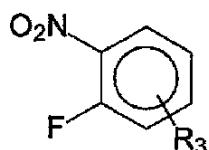
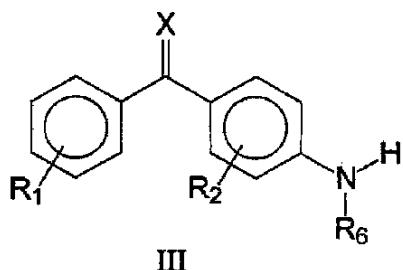
5. 請求項1～4のいずれかに記載の化合物を、単独で、または必要な助剤と共に含有する医薬製剤。

6. 喘息、アレルギー、リューマチ様関節炎、脊椎関節炎、痛風、アテローム性動脈硬化症、慢性炎症性腸疾患、増殖性および炎症性皮膚疾患、例えば乾癬およびアトピー性皮膚炎を治療および予防する方法であって、請求項1～4のいずれかに記載の化合物1種またはそれ以上の有効量を、要すれば他の処置活性成分1種またはそれ以上と共に、またはそれを併用して患者に投与することを含んで

成る方法。

7. 請求項1記載の式Iで示される化合物の製法であつて、

a) 式IIIで示される化合物と、式IVaまたはIVbで示される化合物とを、溶媒（例えばジメチルスルホキシド）中で塩基（例えばカリウムt-ブトキシド）の存在下にカップリングさせて、式IIで示される生成物を生成し、



[式中、X、R₁、R₂、R₃およびR₆は請求項1に定義した通りである。]

b) 式IIで示される化合物を適当な還元剤（例えば塩化第一スズ）で還元して、請求項1記載の所望の式Iで示される化合物を生成することを含んで成る方法。

8. 喘息、アレルギー、リューマチ様関節炎、脊椎関節炎、痛風、アテローム性動脈硬化症、慢性炎症性腸疾患、増殖性および炎症性皮膚疾患、例えば乾癬お

およびアトピー性皮膚炎を治療および予防するための医薬の製造における、請求項
1 記載の化合物の使用。